

# USGS スタッフの来所と意見交換

## USGS 所長 Morgan's delegation ならびに国際地質部長の来訪

海外地質調査協力室  
Overseas Geology Office

### I. USGS 所長及び Morgan's delegation

#### 1. 経過

昭和62年5月12日(火)午後米国地質調査所(USGS)の国際地質部長 Dr. A. T. Owenshine 発信の「USGS 所長及び Dr. B. A. Morgan III 地質総部長の delegation 5名が6月21日(日)成田空港で合流し 地質調査所を訪問したい」とのテレックスが海外地質調査協力室長(以下海外室)宛に送られてきた。USGS 所長は中国訪問の帰路 また Morgan 一行はソ連での会議出席の途中の訪問とのことであった。

USGS は1979年に100周年を迎え 正職員 10,000人のスタッフからなる大きな組織をもち 永年にわたる日・米両地質調査所の協力関係からも 一行を迎えることは近年にない重要な機会であり 「一行の歓迎」を返電した。

USGS 国際地質部長との数次にわたる交信の結果 地質調査所内での会合 テーマごとの分散討議及び見学スケジュールを決定。さらに6月24日~25日の Morgan 一行のための富士箱根地域地質巡検コースが組みこまれ

た。

6月21日(日)午後 成田で合流した USGS 一行を海外室員が出迎え 筑波の工業技術院 ETC に案内。

また ささやかな夕食会をもった。

一行の名前 所属は次の通り。

Dr. Dallas L. Peck

所長 (Reston)

Dr. Benjamin A. Morgan III (1938年生)

地質総部長 (Reston)

Dr. George Gryc (1919年生)

地質総部 地域地質部 西部地域地質課長 (Menlo-Park)

Dr. William R. Greenwood (1938年生)

地質総部 国際地質部次長 (Reston)

Dr. Donald J. Grybeck (1936年生)

地質総部 鉱物資源部 アラスカ地質課長 (Anchorage)

Dr. Stephen L. Eittreim (1941年生)

地質総部 エネルギー・海洋地質部 太平洋海洋地質課長補佐 (Menlo Park)

#### 2. 訪問期間中のスケジュールの概要

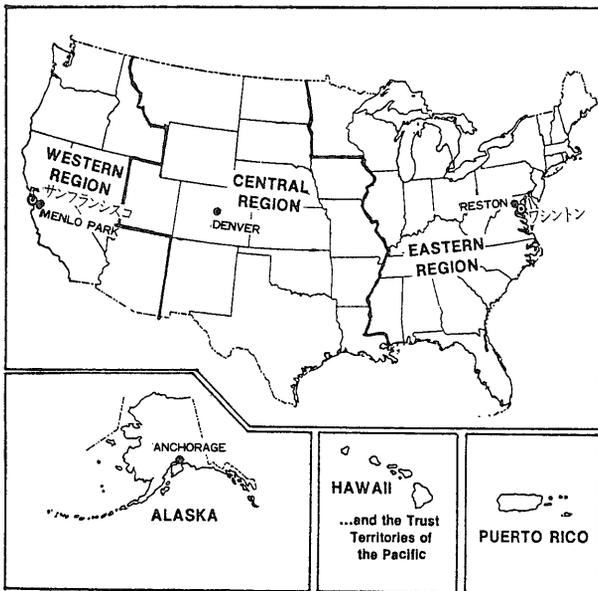
6月22日(月)

9:30~9:50 所長表敬

9:55~12:30 総括討議

地質調査所所長会議スタッフ(物探部長を除く)参加 GSJ 及び USGS スタッフの相互紹介に引き続き

1. 両機関の組織ならびに活動概要紹介
2. GSJ の各研究部及び資料室の活動内容及び関連プロジェクトの紹介
3. 国際地質学会議 (IGC) に関して1992年(日本)の開催準備状況及び1989年 (USA ワシントン)の準備状況について情報交換
4. ATOLL 計画(マーシャル諸島)の紹介
5. USGS と GSJ との間に締結されている MOU (Memorandum of Understanding)の再確認と有効期限(1985年2月~1988年2月)の延長についての討議
6. 環太平洋マッププロジェクト(CPMP)の現状説明



第1図 USGS の各 Region の Headquarters とアラスカ支部 (●)。

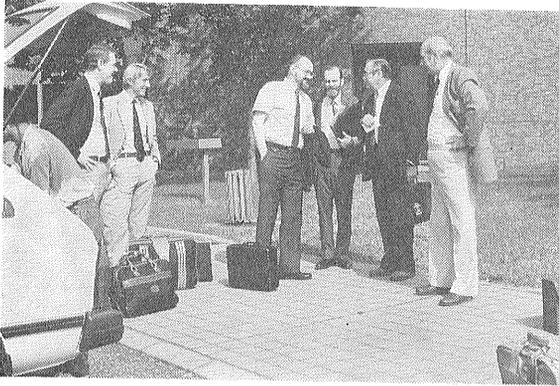


写真1 USGS一行の朝のスナップ (ETC)

- 12 : 40~14 : 30 昼食会
- 14 : 45~16 : 45 建設省国土地理院訪問
- 18 : 00~21 : 00 夕食会

6月23日 (火)

- 9 : 30~10 : 50 地質標本館見学
- 11 : 00~ 分散討議をテーマ毎に開催

1. Deep-seated mineral deposits  
 鉱床部 Grybeck
2. Rad waste sites & UJNR Earthquake and volcanic eruption prediction  
 環境地質部 Morgan, Greenwood
3. Sedimentology  
 海洋地質部 Eittreim
4. Geoscience information system

地質情報解析室 Peck

5. Remotensing  
 鉱床部 Greenwood
6. Rare metal (ITIT プロジェクト)  
 鉱床部 Gybeck
7. CPMP (14 : 30~16 : 30)  
 次長ほか国内パネルメンバー, Gryc, Peck, Morgan
8. Geological mapping (夕食後)  
 地質部長 Morgan  
 [Peck 所長 18 : 25 成田発 帰国]

6月24日 (水) ~ 25日 (木) 富士箱根地域地質巡検  
 この地質巡検は USGS の強い希望を実現したもので  
 好天にも恵まれ 極めて有意義なものとなった。巡検旅



写真2 USGSの来訪メンバー。左から Greenwood Eittreim, Gryc, Morgan, Peck, Grybeck

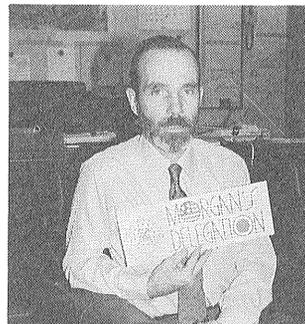
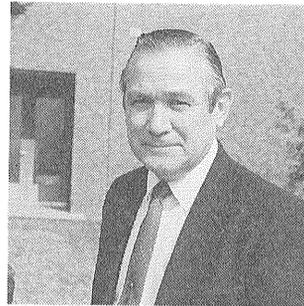


写真3 Peck 所長 (上)とDelegationのステッカー (河村デザイン) を手にする Morgan 部長。

*Dallas T. Peck*  
*June 23, 1987 克*

*The warm welcome to your  
 impressive institute and  
 museum was greatly  
 appreciated*

*A. Thomas Queshine  
 & Elmer Queshine  
 & Tony Raines  
 Aug. 18, 1987*

*Benjamin A. Morgan  
 Bill Greenwood  
 George Suge  
 Steve J. Sittler  
 Don Grybek*



第2図 来所メンバーのサイン。

行の様子は地質ニュース No.386 (1987) の「海外室だより」に紹介されている。

なお Morgan 一行は 6月26日新潟經由 ソ連へ出発  
 一行の中 Eittrheim は 6月30日東京經由 7月1日帰国  
 そのほかの4名は 7月3日東京經由 7月4日帰国した。

3. 総括討議の概要

6月22日(月)午前に行われた一般討議の概要は以下の通りである。

1. USGS の紹介 (Peck, Morgan)

USGS は 1979年に創立され 現在の正職員数は約 10,000人になる。

USGS は Bureau とも称され 内務省 (Department of Interior) に属し その総予算は 6億ドル (約900億円)

になり (この内人件費は一応定年制もないこともあり 78%にもなる) それらは5つの総部 (Division) に配分されている。すなわち National Mapping, Geologic, Water Resources の研究総部と Information Systems 及び Administrative の支援・管理総部の5つがそれである。全予算の中 各部門の比率は Water Resources 38% Geologic 38% National Mapping 19% Administrative 3%ほかとなっている。

また 研究総部の職員数は National Mapping 2,000 Water Resources 4,000 Geologic 2,000 となっている。これに NASA 及び National Science Foundation (NSF) の仕事も加えられている。NASA との関係では Planetary geology と地図作りの業務が主体となる。その他南極地域のプロジェクト 国際協力プロジェクトなども推進されている。USGS の予算は国家予算の問題から10%削減があった。また Mapping については



写真 4 所長表敬。



写真 5 総括討議。

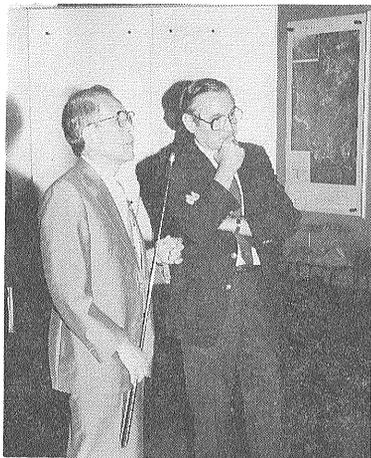


写真 6 標本館での両所長。



写真 7 地質巡検。箱根大涌谷でのスナップ。

Computer mapping システムが導入され Compilation にも活用されている。

Geologic Division には International Geology, Scientific Publications, Regional Geology, Mineral Resources, Earthquakes Volcanoes and Engineering, Energy and Marine Geology の 6 つの部 (Office) があり それぞれに Branch が所属する。USGS には所長を補佐するブレーンの部局として Assistant Directors と Staff Office が直属している。

2. GSJ の各部及び資料室の活動内容及び関連プロジェクト紹介 (省略)
3. IGC 開催準備状況 (嶋崎)

1992年の日本での IGC 開催準備状況について説明。会期中に 150 のシンポジウムを予定しており 主な課題は Island Arc, Continental Margin, Geology of Japan Cosmo-Geology 等が考えられている。Excursion コースは中国 韓国 フィリピン インドネシア等を含めて検討中であり 大会準備委員会で更に具体的案を作成中であることが報告された。

USGS からは1989年ワシントンの大会のサーキュラーを基に紹介があった。

#### 4. ATOLL 計画の紹介 (嶋崎)

マーシャル諸島等にかかわるアトール (環礁) 利用のこの計画は このような島々に海洋温度差発電 海水淡水化プラント マンガン団塊精錬施設 養魚場などを建設することにより これらの地域の国々の経済自立に貢献し さらにわが国へのレアメタル資源や水産資源の安定供給を図るものである。とくにマンガン団塊 コバルト・リッチ・クラストからえられるレアメタル資源はわが国への長期的安定確保を図ることが急務とされ GSJ

として最も関連する課題のひとつである。

#### 5. USGS と GSJ との間に締結されている MOU の再確認と有効期限の延長について (倉沢 Peck, Greenwood)

現在の MOU の有効期限は1985年2月～1988年2月である。これを更に相互確認により延長することは双方にとっても有意義であり 何ら問題はないことが了承された。また Annex I の Deepseated deposits に加えて その II に GSJ・USGS・BMG による Multi-lateral プロジェクトを採択するかどうかは後日の課題とされた。

#### 6. CPMP の現状 (Gryc)

USGS 側からこの計画の目的 現状の説明があり また GSJ 側の努力が評価された。この件については6月23日の分散討議に引継がれてより詳細な論議が交された。

#### 4. 分散討議

6月23日に行われた分散討議のテーマの一部は 一行の来日前の連絡においてすでに固められていたが 総括討議の場で採択されたものも多く 双方共にやや準備不足のままにそれぞれの討議に入った。全体として テーマ毎に双方の現状紹介と今後の協力方向の打診が主な内容となったが 双方の関心が高い分野での直接討議の効果は格別のものがあり 限られた時間にもかかわらず 相互理解を深める絶好の機会であったといえよう。

## II. Ovenshine 国際部長一行

USGS の国際地質部長 Dr. A. T. Ovenshine は夫人同伴で8月13日 (木) に成田着で来日 8月18日 (火) に



写真 8  
Ovenshine  
国際部長.



写真 9  
GSJ 玄関前で. Ovenshine (左から2人目)  
同夫人 (右端) Rains (中央).

別途来日した同じ USGS の地球物理ならびに国際活動担当の Dr. G. L. Rains と一緒に地質調査所を訪れた。Dr. Ovenshine の率いる国際地質部は 当所の海外地質調査協力室(海外室)に相当し(規模は全く異なるが) 平常からも海外室を通じて深い関係にある。観光目的の私的な来日であったが あいにく日本は「お盆」たけなわの時期であり 日本国内の観光は思うにまかせなかったようである。

Dr. Ovenshine との協議では ITIT 事業による「緊急希少鉱物資源の探査技術開発に関する研究」が主体となった。この計画は GSJ と USGS とが協力してフィリピンの鉱山地球科学局 (BMG) との間で研究協力を実施しようとする新しい試みである。現在までの進捗状況と今後の協力について詳細に意見・情報の交換を行った結果 USGS としても日本並ではないが本プロジェクトに協力をする旨の申し出が得られた。このプロジェクトは昭和62年度からすでにスタートしているものでこの時期に USGS の正式参加表明が得られたことは大きな収穫であった。フィリピン側との協議を含めてこのプロジェクトが進展しつつあることは喜ばしい。

一方 Dr. Rains とは主として IGCP 264 「Remote Sensing Spectral Properties」について協議した。この計画には UNESCO が4,000ドル支給しており日本を含めて15ヶ国からの参加予定がある。地質調査所が大プロで実施している「土壌・岩石の電磁特性の研究」の成果をそのままこのプロジェクトに活かすことができることもあり協力の方向が合意された。協力に際しては当所の物理探査部 地殻熱部及び鉱床部が対応するが とくに UNESCO の下で国際研究を行えることと オブレーションなどは設けずに自由に参加できることが魅力である。また USGS と GSJ とのリモ-

トセンシング関係の共同研究については 1991 (1992?) 年に打ち上げ予定の地球資源衛星 ERS-1 に関連した共同プロジェクトを起こすことが提案された。

両氏は8月19日(水)日本を離れた。

### III. あとがき

USGS が1979年に また GSJ が1982年にそれぞれの100周年を祝い 新しい歴史を刻みつつある両地質調査所は 相互の信頼と協力関係を益々深めつつある。その中であって 今回の USGS の所長ならびに首脳 of GSJ 訪問は 近年にない重要な機会であった。平素からの情報交換 研究協力及び研究者交流等を通じての相互協力関係が深いとはいえ 重要スタッフの直接の訪問による意見交換と討議の効果は計り知れないものがあつた。この機会に 率直かつ十分な意志疎通を得られたことは双方にとって最大の収穫であり 現在進行中のテーマはもとより 近い将来に予測される相互協力プロジェクトについてもより一層の進展が計られることとなつた。

それぞれが永い歴史を持ち 国際活動にも豊富な経験を有する両国地質調査所の相互協力は 地質科学分野における全地球的な発展に大きく貢献できるものと確信する。その意味でも 今回のような両機関の首脳による直接会談の機会を今後も積極的に設けて より緊密な協力関係の推進を計ることの必要性を痛感した。

(文責 倉沢 一)